

秦野市子ども・子育て会議（令和８年度 第１回）

会議記録（要点筆記）			
委員会名		秦野市子ども・子育て会議(令和８年度第１回)	
日時	令和８年７月２７日（月） １４：００～１５：３０	場所	秦野市役所本庁舎３階３Ａ会議室
出席者	〔委員氏名〕〔所属団体等〕（☆）…職員交代等による新規委嘱 小林 正稔： しらかばこども家庭支援ステーション副所長（会長） 石井 千昭： 元末広小学校・北中学校長（副会長） 石井 則子： 東海大学児童教育学部助教 片山 友美： 市民委員 梶山 孝夫： 秦野市社会福祉協議会 金子 礼存： 秦野市私立保育園園長会 古関 一仁： 秦野市ＰＴＡ連絡協議会（☆） 高木 貴子： 神奈川県平塚児童相談所 高垣 秀一： 秦野商工会議所（☆） 原 あづさ： 私立幼稚園園長		
欠席者	〔委員氏名〕〔所属団体等〕 木村 昂枝： 市民委員 内藤 剛彦： 秦野伊勢原医師会 藤田 直正： 秦野市学童保育連絡協議会 松原 沙織： 獨協大学経済学部教授		
〔事務局〕 こども健康部長 こども健康部 こども政策課長 保育こども園課長 保育・給付担当課長代理 こども家庭支援課長 こども・若者相談担当課長 こども育成課長 教育部 教育総務課 教育総務担当課長代理		〔庶務担当（こども健康部こども政策課）〕 こども政策課 課長代理 主任主事	
議事内容	１ 開 会 ２ 委員紹介・事務局職員紹介 ３ 会長あいさつ		

	4 議事 (1) 秦野市こども計画の令和７年度実施状況について (2) 保育提供体制の確保のための実施計画等について (3) その他 5 閉会
配付資料	・次第 ・委員名簿 ・【資料１】「秦野市こども計画」の令和７年度実施状況報告書 ・【資料２】保育提供体制の確保のための実施計画等について

〔１ 開 会〕

○事務局

（配付資料の確認）

〔２ 委員紹介・事務局職員紹介〕

委員は五十音順、事務局職員は組織機構順に自己紹介

○こども健康部長よりあいさつ

○事務局

（１４名の委員のうち１０名の出席があったため、秦野市子ども・子育て会議条例第５条第２項の規定により、会議が成立していることを報告）

〔３ 会長あいさつ〕

〔４ 議事〕

（１） 秦野市こども計画の令和７年度実施状況について

○事務局

【資料１】に基づいて説明

○委員

報告案を拝読し、子どもたちの健全育成のために多様な事業が展開されていることを高く評価する。その中で、以下の４点が共通の課題として見受けられた。

①情報発信と周知・広報の工夫

必要な方に情報が届きにくい現状がある。情報の取得が苦手な層へのアプローチが引き続き課題である。

②担い手不足

保育士や市民活動の高齢化による担い手不足に加え、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなど専門スタッフの不足が事業推進のネックとなっている。

③ライフスタイルの変化・対象者の課題の多様化

課題が複雑化し、またライフスタイルが変化する中、動画配信による周知など、現

在の状況に適した工夫が見られる点は評価したい。

④関係機関との連携

多様化するニーズに対し、関係機関といかにスムーズに連携していくかが重要である。

なお、報告書内に新しい用語が多く見受けられる。市民や子育て世代に周知する際は、事業内容が直感的に伝わるよう、分かりやすい言葉で説明する工夫をお願いしたい。

○委員

情報収集に関連して、保護者の立場から意見を述べる。子どもの発達に不安を感じて検索しても、虐待等の異なる情報が混在しており、自分が必要とする窓口にとどり着くのが非常に困難であった経験がある。電話で問い合わせたが、そこでも「担当窓口が違う」と言われたものの、最終的に正しい部署に案内いただいた。最近も友人から聞いた話で、健診で相談した際も「まだ小さいから分からない」と言われ、その後どうしていいか分からずネットで調べ続けて不安になっているということがあった。子育て中の親が不安を感じた際、迷わずすぐに適切な窓口につながれるような導線づくりをお願いしたい。

○会長

専門家の立場から申し上げますと、現在、発達の診断結果が出るまでに数ヶ月から1年も待機する状況があり、その間保護者が不安を抱え続けている現状には問題がある。専門家や窓口に求められるのは、数値化された診断名にこだわるのではなく、子どもの全体像を把握し「今、何が必要か」をアドバイスすることである。

「こども誰でも通園制度」の0歳児のニーズ増加も、保護者の孤独感や「助けてほしい」という訴えと捉えるべきだ。安易に医療機関や個別支援級に繋ぐのではなく、現場での経験に基づく「謙虚な知恵」を活かし、保護者を安心させる寄り添い型の支援が求められる。

また、インターネットで発達について調べるとネガティブな情報ばかりが出てくる。市としては、「子育ては大変だけど楽しい」というポジティブな発信をしていただきたい。全体的に、数字（効率性）ばかりを追うのではなく、「こういうことがやりたい」という市の思いが出てきている点は、昨年よりも一歩進んだと評価している。

ただ、個人的には市が費用を出して「婚活」を行うことには違和感がある。民間によるイベントで良いのではないか。

○委員

市の報告案全体については前年度と比較してもよくできていると評価する。一方で「結婚支援事業」について、行政が個人の結婚という領域にどこまで踏み込むべきか疑問がある。「利用促進」や「情報提供」といったマッチングの場の提供だけで終わってよいのか、担当部署の考えを伺いたい。

○事務局

本事業は少子化対策の一環として実施している。以前は職場の上司や近所の人など「お節介な人（仲人）」が引き合わせるケースが多かったが、現在は核家族化やハラスメントの観点からそうした出会いが難しくなっており、行政がある程度サポートして地域社会を維持する必要があると考えている。

昨年度の実施状況を見ると参加者の熱量は高く、一定のニーズがあることを実感している。ただし、過度な伴走型支援は行政の役割を超えるため行わず、あくまで「出会いの場の提供」に留める方針である。

また、出会いだけではなく、ここから結婚・出産・子育てへとつながり、若者世代が本市に環流していく構造の第一歩として、他事業（市の魅力発信等）への波及効果も期待しつつ継続していきたいと考えている。

○委員

結婚支援事業単体の成婚率にとらわれるのではなく、「秦野市は子育てに良い街である」とアピールする絶好の機会として捉えるべきである。例えば「秦野たばこ祭」などの既存イベントとコラボレーションすることで、民間のマッチングサービスにはない行政ならではの魅力として打ち出せるのではないかな。

○委員

本質は少子化対策である。晩婚化が進む中、マッチングの対象とする年齢層のターゲットを明確に絞ることで、少しでも効果的な少子化対策へ繋がるよう事業を設計していただきたい。

○委員

療育支援について、様々な事業で手厚く対応いただき感謝している。ただ、現場の課題として、気になるお子様がいて次の支援に繋がりたいと思っても、保護者の理解が得られず、ステップを踏めないまま就学を迎えてしまうケースが見受けられる。何らかの形で保護者支援を一層強化する必要があると感じている。

○会長

行政の窓口対応についても柔軟な対応をお願いしたい。障害福祉サービスの受給者証取得などにおいて、「数値の根拠がない」ことを理由に窓口で申請を断られたり、検査待ちで長期間放置されたりするケースが他自治体等でも見受けられる。制度の枠組みや数値（IQなど）だけで判断するのではなく、発達を心配する保護者の思いに寄り添うことが重要である。最初の窓口対応で保護者に嫌な思いをさせると支援が遠のいてしまうため、まずは相談者（保護者）に寄り添って支援を行うような窓口の姿勢が求められている。

○委員

外国籍の方も増えており、日本語がカタコトの場合、深い部分までの意思疎通が難しい面があるため、そのあたりの支援も必要である。

（２） 保育提供体制の確保のための実施計画等について

○事務局

【資料２】に基づいて説明

○委員

事業計画予算の宿舍借り上げの「43人分」という数字は、どのように算出したものか。

○事務局

予算要求前に各民間園へ意向調査を行い、その回答を集計した結果に基づき算出したものである。

○委員

保育士確保を目的とした施策について、宿舍借り上げ以外の施策との統廃合等はどうなっているか。

○事務局

本市では平成30年度から、新たに就職した保育士に対して「保育士等就労促進給付金」（市内在住者20万円、市外在住者10万円等）を支給している。

保育士の就職活動においては、各自治体の支援メニューを比較検討する傾向にあるため、他市と遜色のない支援策を一つのパッケージとして展開すべく、令和8年度から宿舍借り上げ事業を導入した。本制度があることで市内への就職を決めたという声もいただいており、全体の保育士確保策として一定の成果が上がっていると考えている。

○会長

東京都と比べてしまうと人材獲得競争は条件面で非常に厳しい状況にあるが、引き続き計画的な取組と現場への支援をお願いしたい。

○委員

本市の保育現場には、過去からの蓄積による高い「人材育成力」があり、優れた保育士が育つ地盤ができている。そのため、まずは本市に就職してもらうための入口の支援（確保策）が非常に重要であると感じているのでしっかり進めていただきたい。

（３） その他

○会長

特に御意見等なければ、ここで事務局へお返ししたい。

○事務局

今年度の第2回会議について、現時点では開催しない見込みとなっている。急遽開催する必要が生じた場合には、改めて御連絡したい。

なお、令和9年度はこども計画の中間見直しの年となっているため、夏頃に第1回、秋頃に第2回を開催したいと考えている。詳細については改めて御案内したい。

以上をもって、秦野市子ども・子育て会議を閉会とする。本日の御礼を申し上げる。

〔５ 閉 会〕